

府立豊中支援学校



テーマ:児童生徒の「できた」「わかった」を明確にする教育の実践を

概要

学習指導要領の改訂にあたり、授業改善の推進がさらに求められています。本校では、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」と「学習評価の充実」に焦点を当てた授業改善の取組みの普及を促進していくために、全体会にて課題を共有し、テーマを設定しました。各学部の授業者が教育目標を踏まえた単元計画の作成と授業実践、計画の見直しから「授業づくり」と「学習評価」への理解を実践的に深めるとともに、研究協議を通して全体への共有を図りました。

実施スケジュール

Research

6月25日(木) 担当者、担当指導主事で、今後の進め方について打合わせ

Vision

7月30日(木) 全体会を開催

Plan

8月~ 学習指導案の作成・検討

Do

9月 9日(水) 事前授業・授業後の協議(小・中学部)

9月 10日(木) 事前授業・授業後の協議(高等部)

9月 24日(木) 研究授業(高等部)

9月 30日(水) 研究授業(小・中学部)・研究協議

Check & Act

1月上旬 アンケート集約

全体会

7月30日(木)「学習指導要領改訂のポイント」について

支援教育推進室指導主事より

- ・全体会当日は、感染症拡大防止の観点から、ビデオ・WEB会議ソフトを使用した、音声ありの講義資料を基に実施しました。研修後半では、コミュニケーションツールソフトを使用し、研究に関する内容の意見集約を行いました。
- ・学習指導要領を読み解く4つのキーワードとして、①育成をめざす資質・能力、②社会に開かれた教育課程、③主体的・対話的で深い学びの実現、④カリキュラム・マネジメントを挙げて説明を行いました。最後に、学習指導要領を踏まえての学習指導案作成のポイントについての説明を行い、「学習指導要領改訂のポイント」とする全体会での研修内容としました。

研究授業(1)

学年・教科： 小学部5年 「算数」
単元名： 「丸、三角、四角をさがそう」

ICTを活用した自立をめざした授業づくり

研究協議のポイント

これまでの学習から得た知識及び技能を、児童自身の実生活と結びつけ生かすことができるものとするために、「自分で操作する」「自分で見つける」「自分でやってみる」といった主体的な学びや、「自分の思いを伝える」「他者の考えを聞く」等の対話的な学びの場を意図的に設定し、授業づくりを行いました。ICT機器(タブレット)や電子モニター等を用いることでの有用性や、単元のねらいと各課題が持つ意味、意図した指導・支援内容等の工夫・改善について協議を行いました。

研究授業(2)

学年・教科： 中学部2年 「国語」
単元名： 「絵本をつくろう」

言葉からイメージ、動きから文字理解へとつながる授業づくり

研究協議のポイント

生徒の持つ内言語を感覚的な表現であるオトマトペを通して外言語化である「動き」として表現し、「動き」を通して言葉の持つイメージを具体化させることで、本来の意味に触れ、生活に生かすこ

研究授業
(3)

学年・教科： 高等部2年 「美術」
単元名： 合わせ鏡の世界を体験しよう

不思議に気づく授業づくり

研究協議の
ポイント

作品づくりを通して、造形的な視点である「漠然と見ているだけで気付かなかった身の回りのものの特徴や色彩、形などに気づいたり、よさや美しさを感じ取ったり」といった美術ならではの造形的な見方・考え方を働かせて学ぶことのできる授業づくりを行いました。生徒が持つ完成イメージと実際の作品との違いを調整しようと試行錯誤する主体的な学びや、鑑賞や発表による対話的な学びのための場の設定、T・Tによる生徒理解や授業内での役割分担等について協議を行いました。

成果

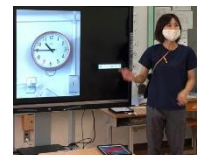
小学部・中学部・高等部 研究協議・気づきシートより

小学部の研究授業では、児童が興味・関心を持つICT機器（タブレット）やアプリを各回の授業目標達成のためのツールとして使い、児童の“やる気”を引き出しながら、児童自ら課題に取り組む主体的な学びの姿や、他者と課題を共有し理解を広げる対話的な学びの姿を見ることができました。

中学部の研究授業では、個に応じた課題に取り組む集中課題と個別課題、全員が同じ課題に取り組むグループ課題について、2名の教員での T・T の役割や教員と生徒の座席配置、授業の進め方等を工夫・改善が図られていること分かる授業を展開することができていました。

高等部の研究授業では、生徒が持つ完成イメージと合わせ鏡を通して見た実際に完成した作品との違いを調整しようと試行錯誤しながら取り組む主体的な学びの姿を見ることができました。さらに、授業実施にあたっての教員間の生徒理解や役割分担等についても、授業回を重ねるごとに工夫・改善が図られていること分かる授業を展開することができていました。

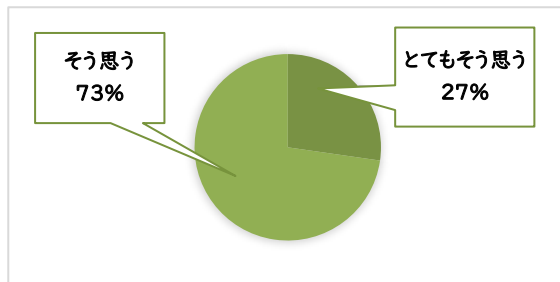
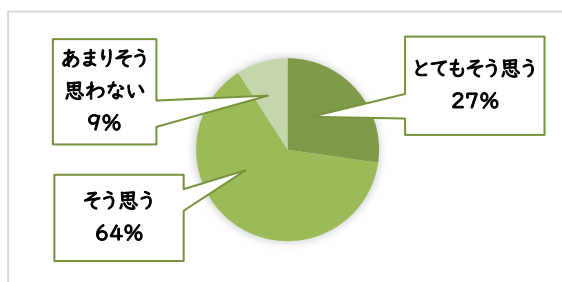
今回、指導案を作成することで、授業者自身の思いや考えを整理することや授業者の意図を T・T と共有すること、各目標に向けた意図的・効果的な指導・支援とするための手だて・方法を改めて考える機会とすることで「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを体験的に学び、協議を通して共有することができました。



アンケート
結果

① 学校のニーズにできていた

② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想やご意見より)

- ・ 経験の少ない教員が増える中、授業づくりに関する気づき、研究体制の構築について、それぞれの見識が深まりました。ありがとうございました。
- ・ 授業力の向上について、ポイントを絞って大切なところを分かりやすく伝えていただき、ありがたかった。授業づくり、校内研究体制づくり、人材育成等の意識改革については、授業者3名だけではなく、もっとたくさんの教員が関わり、もっとたくさんの教員が自らのことと捉え、学校全体の授業力向上につながればよいと思った。
- ・ 教員向けアンケートに、授業者の授業を見て「参考になった」「ためになった」「新しい発見があった」等の意見が多く見られました。